

安全性国が確保を

がれき受け入れ 知事ら要望

【東京】東日本大震災で発生しがれきの広域処理について、安全性の確保などを前提に、事実上の受け入れを表明した鈴木英敬知事と県市長会会長の亀井利克名張市長、町村会会長の谷口友見大紀町長は二十三日



横光副大臣（右から二丁目）に要請書を渡す（左から）谷口町長、亀井市長、鈴木知事と金森衆院議員（右） 環境省で

日、環境省や民主党を訪問し、放射線の安全性や最終処分先の確保などについて、国が責任を持って対応することなどを要請した。二十日に三者で合意したのを受け、国へ合意内容の報告と対応の強化を求めるために要請活動した。樽床伸二民主党政幹事長代行、横光克彦環境副大臣とそれぞれ面談。紹介議員として金森正衆院議員が同行した。

国への要望は、受け入れについて住民の理解が得られるよう、安全性確保と情報公開、説明責任の実施▽焼却灰を処理する最終処分場の確保や調整▽風評被害の発生防止と、万一発生した場合の十分な補償▽モニタリングなど安全確認に必要な事項を地域の要求に応じて実施▽処理に関わる経費などの全額国庫負担を求めた。

樽床代表代行は合意を謝辞した上で、県と市長会、

町村会の三者方式について「三重モデルは全国にない例。全国的に受け入れが厳しい状況の中で、英断だ」と評価した。

横光副大臣は、最終処分先の確保は国の責任でやることや、処理費用など国で全額負担する方向で進めていることを報告した上で、「一日も早くスピード感を持って進めたい」とした。

終了後、ぶら下がり会見に応じた鈴木知事は、「前向きに応じてもらった。安全性確保に向け、国もしっかりと責任を果たしてほしい」と述べ、最終処分先についても「めどがたない（受け入れが）進まない」と述べ、来週も先んじて調整してほしいと注文した。

具体的受け入れなど今後のスケジュールについて

は、「一日も早く動かしたいが、住民の不安の払拭や議会の問題もある。市町と一体となって取り組みたい」と語った。

亀井市長は「三重県方式の三者合意でスタートラインに立つことができた」とした上で、「特に安全面の確保について、国の全面協力をお願いしたい」と述べた。

谷口町長も「安全性確保について国の姿勢が分かり、来て良かった。一日でも早く市町にその気になってもらって、東北を元気づけることができれば」と語った。

（中森敬子）